

◆「まちづくりひろば」(当初は「フォーラム」と呼称) **実施記録** (2011年7月15日更新版)

主催: 釜ヶ崎のまち再生フォーラム(08年頃からは大阪市大西成プラザ等との共催が頻繁になる)

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返つての感想も)
1	99年10月9日(土) PM1:30-5:00	阿倍野市民学習センター(講堂)	<p><1>「野宿者緊急対策をまちづくりへつなぐ」</p> <p><2>釜ヶ崎居住 COM の呼びかけによる「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」立ちあげと、各分野の方々によるまちづくりの必要性等に関する意見交換</p>	釜ヶ崎居住懇(報告と提案) +釜ヶ崎地域各セクション・個人からのまちづくり提案と意見/異見交流 (基調発言4人、会場から発言12人)	106人	日雇い労働者やボランティア団体スタッフ、簡宿組合関係者、一般市民、学者・研究者、衆議院議員や市会議員、マスメディア関係者など広範囲に参集。事前新聞報道で兵庫・京都・静岡からも。釜ヶ崎の運動や対策の現状に関する整理と、簡宿活用からまちづくりへという居住懇の考え方を説明。参加者が広範囲すぎて、論点絞れぬ面も。が、このフォーラムを月1回程度で継続開催することを提案し、了承される。→論議の結果を地域内外に郵便で広く発信(以後数回は郵送を続けた)
2	99年11月13日(土) PM1:30-5:00	西成区民センター	「住み続けられるまちづくり」ビジョンをさぐる	全員によるワークショップ(WS) ファシリテーター; 釜ヶ崎居住懇メンバー	21人 (+報道若干名)	2つの小テーマ(3つの班)に分かれて行う。WS手法に不慣れながらも、新鮮感。テーマ1:このまちの現在の印象、めざす将来のイメージ。テーマ2:このまちに欠けているもの、住み続けるために必要なもの。
3	99年12月18日(土) PM1:30-5:00	阿倍野市民学習センター(研修室)	「みんなが考えるまちづくり」、そのためのしかけを語り合おう	進行役: (居住懇改め)居住COM (寺川)	46人	釜ヶ崎居住 COM の呼びかけ方式から、地域内の幅広い層の人々から成るフォーラム実行委員会を結成し(まず10人でスタート+事務局は居住 COM に運営委託)、そこが今後は運動をすすめることを決定。「目的」や「運営のルール」も申し合わせる。また、住民各層に深く密着しての議論をすすめるための「課題別フォーラム」と、要所要所での「全体フォーラム」の2種類実施を確認。
4	<p>■上記決定にもとづき、2000/01/11以後、毎月第2火曜日にフォーラム実行委員会定例会を開催。誰でも参加できる、地域に開かれた会議として、その都度、実行委員以外の参加者多数あり。「参加者はみんな実行委員」というスタイルで、その壁はほとんど無し。</p>					

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
5	00年1月11日(火)夜	西成市民館	釜ヶ崎のまち再生フォーラム実行委員会の成立と出発 目的・運営ルール・人事(実行委員=希望者申し出制)・財政等の確認と今後の運営方針、とりわけ今年度の行動目標(簡宿活用ワークショップなどの年次計画)		25人	このまちづくり運動を継続していこうという広い合意のもと、いよいよ出発。当初は実行委員は10人で、随時補充されていく(⇒02年9月には36名にまで増えた)。
6	00年1月29日(土) PM1:30-5:00	萩之茶屋集会所	「簡宿活用のアイデア提案と討論のつどい」	進行役:事務局(居住COM)+鈴木秀男さん 他 共催:簡易宿泊所組合内の簡宿活用委員会、釜ヶ崎居住COM	46人	居住の安定と地域の再生のために、福祉関係者や生活保護・介護NPOのスタッフなどから提案された、簡易宿泊所の6つの活用法について、ワークショップ形式で考察。つまり、①ホテルとしての充実化 ②緊急避難シェルター ③簡宿形態での生活保護 ④介護保険でのデイケア施設化 ⑤福祉アパート化 ⑥グループホーム化。
7	00年2月8日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 1/29 ワークショップで出た「簡宿活用6つのアイデア」の分析と具体化のための論議		20人	星野智暫定代表がケガで入院のため、阪東美智子居住COM調査部長が進行役
8	00年3月11日(土) PM1:30-5:00	難波市民学習センター(研修室)	「まちづくりの中で仕事を開発してみま専科」	仕事づくりNPOメンバー: 大谷磐雄、山本憲一、岡林由希子、村山日南子、鈴木秀男等のみなさんが右記の6つの事業を提案 進行役:釜ヶ崎居住COM	50人弱	提案内容は多彩。①生ごみリサイクル事業の可能性 ②営繕事業の開拓 ③介護ヘルパーの養成と派遣事業の試み ④(農村出身者が多いので)農家との連携事業(農作業の請負等) ⑤廃棄発泡スチロールをフラワーボックスにする仕事の模索 ⑥エコマネーを使った仕事づくり等。アイデアの豊かさにみんな感心。
9	00年3月14日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会 今後のアクション構想を練る。 事務局は釜ヶ崎居住COMに委託中。			まだ運営は手探り段階。介護保険制度開始まもない。福祉事務所のCWがとて手が回らず、今後NPO等の役割が増大せざるをえない状況が語られる。追加実行委員選出。
10	00年4月11日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 4/15「仕事づくりやマイクロクレジット等学習会」や 5/13 地域通貨ワークショップの準備について等		15人	
11	00年4月15日(土) PM1:30-5:00	難波市民学習センター	実行委員を中心にした小規模学習会	進行役: 事務局(居住COM)	10人強	ビデオも使いながら、次回の地域通貨ゲームやマイクロクレジット(小規模信用貸付)についての事前学習。「野宿者居宅保護基金」も。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
12	00年5月9日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 5/13 地域通貨活用ワークショップ準備について等		15人	
13	00年5月13日(土) PM1:30-5:00	難波市民学習センター	タイトル「地域通貨とはいったい何ぞや!?!いっぺん、みんなで試してみようやないか」	進行役: 事務局(居住COM)	23名	NHKの「おうみ通貨」ビデオを使いながら、レクチャー&提案。その後ワークショップ(ゲーム)で体験(検証)後、釜ヶ崎での実施に向けた意見交換をした
14	00年6月13日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会		20人	7月のフォーラム定例会を太子福祉館で広く呼びかけて開催すること。内容は「誰でも住み続けられるまちづくりビジョン」の総論・各論の進展状況の発表とする等を確認。
15	00年7月11日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 7/15「中間まとめの集い」の準備その他		15人	
16	00年7月15日(土) PM1:30-5:00	太子福祉館	全体討論 「中間まとめの場だ。頭の整理をしよう」	進行役: 事務局(居住COM)	60人	新しい釜ヶ崎のまちのビジョンの「中間まとめ」を行なう。その後のまちづくりやコミュニティビジネス等の進展に大きな方向性を与えた歴史的な会合。サポータティブハウス(当時は福祉マンションと呼称)に入居した野宿脱出者数人も初参加
17	00年9月20日(水)~21日(木)	西成市民館	まちづくり特別展示会「釜ヶ崎まちづくりビジョン(中間まとめ)」の発表と展示		200~300人	上記でできたまちづくりビジョン(いわば市民版グランドデザイン)を地域内に少しでも浸透させるために実施。大淀寮や仕事づくりNPOなどとともに大きなパネルを展示
18	00年10月10日(火)	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 「福祉マンションの運営をささえる会」(暫定名称)発足について等		20人	この日の論点は、入居者自身の参加形態をどうするか、その声をどう反映させるか等。大阪城公園友友の会の会長さんがかつての野宿仲間たちの居住ぶりを視察に来て安心して帰ったこと等も報告された。
19	00年10月14日(土) PM1:30-5:00	太子福祉館	「"釜ヶ崎再生モデル区域"でできるたくさんのごことを、考えてみよう」	主催: 釜ヶ崎のまち再生フォーラム 進行役: 事務局(居住COM)	50人	<給食サービスセンターを設立または誘致する><就労支援型グループホームを模索しよう>の2つの提案を討論。扇町公園野宿者自治会の副会長さん等も出席し、発言

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
20	00年11月14日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽カマ通貨委員会の試みの活動報告 ▽福祉マンションの運営をささえる会(暫定名称)の動き ▽「就労自立支援型グループホーム」のモデル事業の件(経過と現状、元気100倍ネットの生ゴミリサイクル事業の進展度、同構想の東京山谷地区での展開状況) ▽釜ヶ崎・山谷まちづくりスタッフごっそり交流会の提案(経過、構想、準備) ▽ 連合大阪主催「野宿生活者支援特別立法シンポジウム」(10/16)への参加について		30人弱	参加者は、どんどんオブザーバーの方が増えている。30名に迫る数となり、用意した討議資料が足りなくなる状況。市民活動センター・神戸から3人の若い女性、長居公園周辺住民の方2名なども。
21	00年12月12日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 「福祉マンション」サポート体制の改善について		25人	まちづくりの中で先駆的に創り出されたこの支援付き住居について、「経営や経営者をささえるのか、その居住者をささえるのか」「通過型住居にふさわしいサポートメニューとは何か」等を軸にした議論が続いた。
22	01年1月9日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽「生ゴミリサイクルモデル構築事業」の実施方法について(府からの事業委託) ▽釜ヶ崎・山谷まちづくり政策討論会(仮称)について。呼びかけ人s、各論ごとの報告者s、その最終確定 ▽「福祉マンション」サポート体制の改善について(継続審議中のもの)		30人	(NPOシチズンホームライフ協会の大谷代表らが苦勞しながらすすめている)生ゴミリサイクル事業、「福祉マンション」の運営方法(特に通過型住居型にふさわしいサポートのあり方論議)。いずれも今後の地域の浮沈をかけたものとして、まちづくりの輪の中で白熱した議論がなされた。力を合わせようという姿勢が濃く共有されている。
23	01年2月13日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会▽ハウジング&コミュニティ財団からの助成金80万円の活用方針について ▽「福祉モデル区域」における福祉ネットワークの整備状況 ▽生ゴミリサイクル事業のその後の準備状況 ▽東西寄せ場・まちづくり政策連続討論会について		30人	「福祉モデル区域」とは、西成市民館から西に南海電車ガードまで伸びる、百米ほどのストリート。「おはな」「陽だまり」「アプリーシエイト」の簡宿転換型支援付き住宅(初めは福祉マンションと呼称)や「旅路の里」が集中し、今後の釜ヶ崎福祉のモデル区域にしようとの考え。福祉マンションの中でのグループホームの認可&開設や訪問診療、配食サービスなどタテ系列、ヨコ系列のネットワーク(私たち風の居住基盤整備)が前進。釜ヶ崎隣接地域の既存福祉網との連結が少しずつ始まったと言える。オーナーのみなさんをはじめ関係者の方々の努力には頭が下がる。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
24	01年3月 13日 (火)夜	西成市民館	<p>フォーラム実行委員会定例会</p> <p>▽「釜ヶ崎のまち再生・福祉モデル地域」の整備に関すること→(先月に引き続き)ハウジング&コミュニティ財団からの助成金 80 万円の活用方を確定</p> <p>▽「福祉マンションの運営をささえる会」(暫定名称)から「釜ヶ崎地域の高齢生活をささえる会」への発展について(報告)</p> <p>▽近隣地区医療機関との連携のあり方について</p> <p>▽栄養相談プログラムについて</p> <p>▽生ゴミリサイクルモデル構築委託事業について(おもに報告)</p> <p>▽「まちづくり意向アンケート」に関する大阪市計画調整局地域まちづくり推進部との話し合いについて</p> <p>▽西成医師会への相談と話しあいの要請文</p>		25人	<p>▽この頃に形成中のグループ(メンバー重複も多し)⇒</p> <p>釜ヶ崎地域の高齢生活をささえる会の運営グループ、宅老所・デイサービス等研究、生活支援セミナー、料理講習会、配食サービス、栄養相談、訪問診療、釜ヶ崎介護、グループホーム</p> <p>JOY、福祉マンション内での交流事業や居住者サークル、補助的仕事づくりグループ、地域通貨委員会、そこでの地域誌(流通促進誌)編集委員会、釜ヶ崎まちづくりNPO 合同事務所(釜ヶ崎 eggs)運営グループ、そこでの手習いパソコン提供グループ、ホームページ作成グループ、生ゴミリサイクル事業支援の会、各種調査・ケーススタディ活動、東西寄せ場・まちづくり政策連続討論会資料集作成や運営スタッフ、NYのコモンランドコミュニティとの交流事業、フォーラム月例会やワークショップ開催担当者、等々だった。</p>
25	01年4月 10日 (火)夜	西成市民館	<p>フォーラム実行委員会定例会</p> <p>テーマ:再生フォーラム的「モデル区域」内にある西成市民館の建て替えについてワークショップの開催提案</p>		20人	<p>今月はせつばつまった議題は少ない。なぜか。各部門や各プロジェクト推進グループがそれぞれ独立して自律的に動くようになってきているからとの分析。釜ヶ崎地域の高齢生活をささえる会、福祉マンション・オーナー会、生ゴミリサイクル事業支援の会(仮称)、カマ通貨委員会、H&C 財団助成金 80 万円活用連絡会、東西寄せ場・まちづくり政策連続討論会事務局などなど…。(もともとから存在する各団体はもちろん)、こうした新しくできていく委員会(分科会)、グループなども全部、独立組織として扱うため。フォーラム本体は「NPO 支援センター」的な位置づけだった。</p>

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
26	01年5月8日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会テーマ:今夜は何でもありの形式と内容で討論。		20人	一度形をこわして、気軽なブレーン・ストーミング形式で開催。理由は、「立ち上げ期は何でもありのごった煮の語らいができてよかった」「最近のフォーラム定例会では多様な各部門の連絡調整事項が増えて、頭と言葉を整理してからでないと言言しにくくなっている…」という感想があったため。介護事業支援なども議論。
27	01年5月26日(土)終日～5/27(日)昼	難波市民学習センター	東西寄せ場討論 大阪集会 ～NPO 山谷ふるさとの会を中心とする東京の寄せ場・山谷地区のまちづくり団体と経験交流～	▽大阪会場 ありむら潜、さつじつつじ会、横石金男、岡林由紀子、加美喜史、河崎洋充、原昌平、阪東美智子、山田和英、寺川政司、神野武美、福原宏幸、文貞実、鈴木秀男 ▽東京会場 黒崎羊二、今川勲、山下真実子、市野裕一、山本徳子、水田恵、成清正信、青木利元、大崎元、中島明子、的場由木、麦倉哲	50人	5月12～13日の東京会場(参加者約50名)に続いての開催。釜ヶ崎、山谷のそれぞれの地区でのまちづくりの実践に関して約20本の報告があらかじめ用意され、これを踏まえて活発な議論が展開された。このような集会は珍しい。しかも、ハウジング・ファースト的な考え方を共有していた。
28	01年6月30日(土)午後	太子福祉館	もしも西成市民館(または職安南分庁舎跡)を建て替えるとしたら? ワークショップその1 (フォーラム創設後、通算10回目)	進行役:釜ヶ崎居住COM等	40人	動機は「高齢化対応等の地域資源が足りない!そこにある施設をもっと活用したい!」今回初めて「福祉マンション」(後にサポータビュハウスと呼称)居住者も参加。6つのテーブルに分かれて、「釜ヶ崎でよく利用されている施設とその問題点」「釜ヶ崎にあったらいいなと思う施設」「西成市民館に期待する役割や内容」をさぐった。詳細は→ http://www.kamagasaki-forum.com/ja/index.html
29	01年7月10日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽「野宿予防駆け込み寺モデル構築事業」(仮称)のその後 ▽カマ通貨委員会(8月初旬からの流通開始に向けた体制づくり、釜ヶ崎夏祭りへの参加構想) ▽西成市民館(またはあいりん職安南分庁舎跡)建て替えビジョン・ワークショップ(6/30)について(反省と今後のサテライト・ワークショップの実施計画) ▽生ゴミリサイクルモデル構築事業のその後(6/30市民集会等) ▽釜ヶ崎の高齢生活をささえる会関連 ▽釜ヶ崎ボランティア養成講座実施について		25人	この秋にも野宿生活者自立支援法民主党案が上程される状況の中で、対策の民間版・市民版モデルづくりにまい進するフォーラム。今月の議論の目玉は釜ヶ崎ボランティア養成講座。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
30	01年8月5日(日)午後	「イノセンス」	地域通貨ゲーム	寺川政司さん等 (釜ヶ崎居住 COM)	20人	サポハウス等の新しくみで脱野宿を果たした単身高齢者の孤立を防ぎ、「つながりづくり→自分の役割発見→生きがいづくり」に資する目的で、まずは当事者自身の中でゲームを楽しみながら実施への課題を発見しようと試みたもの。
31	01年9月11日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽カマ通貨委員会(現状報告とその場でのGive&Takeリスト誌への会員登録) ▽釜ヶ崎ボランティア養成講座(11/10の正式スタートに向けて日程、プログラム、推進体制の確認等) ▽当フォーラム事務局体制の改善に関する提案		25人	運動の広がりや医療福祉の問題など専門性や困難度も増し、釜ヶ崎居住 COM が肩代わりする事務局体制では対応不可の状態になってきた。フォーラムというゆるやかな協働を推進していくための事務局とはどんなかたちや人事がいいのか議論された。強い「統括&指導型」か、小さな「コーディネート型」か等が論点。
32	01年10月9日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会▽「釜ヶ崎エッグス」看板披露セレモニーと一対の「まちづくりの夢を語ろう」とい」の提案 ▽「福祉マンション(サポティブ・ハウジング)」による疑問 Q&A」について討議		20人	参加呼びかけ文からの引用(以下)「アフガン難民や NY のテロで緊迫しているこの時期。私たちは地道に<地域>をとても大切にすると同様に、<地球>もとても大切にします。たまたまホームレス支援(=貧困や社会的排除の克服)の分野を通してそうした地球市民をつくりだすための普遍的な営みでもあるのだと、個人的意見ながら、そうとらえています」
33	01年11月13日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽就労自立後のアフターケアマネジメント事業について ▽その他全般的な、何でもありの議論		20人	第1期釜ヶ崎ボランティア養成講座に(宣伝開始が予定より1カ月も遅れたのに)定員を上回る44名の応募があり！第2期への問い合わせも来ており、潜在的な需要がまだあることが指摘された。たいへんに明るく心強い材料だとの認識が共有された。
34	01年12月11日(火)夜	コスモ	フォーラム実行委員会定例会 ▽第1期釜ヶ崎ボランティア養成講座の実施状況報告と課題さがし ▽「釜ヶ崎ボランティアセンター」(仮称)設立構想の具体化について ▽釜ヶ崎ボランティア・研究者優待制度の創設と試用状況について ▽「サポティブ・ハウス(福祉マンション)Q&A」第2次文案についての議論		20人	地域医療の中核たるべき大阪社会医療センターが、居住者への在宅型栄養相談事業をこの秋から開始。官・民連携による<相互活用>によって、双方が持てる役割を高めあうものだし、大阪社会医療センターが地域医療の原点へ立ち戻る決意を示すできごととして、関係者にはたいへん喜ばれている。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
35	02年1月15日(火)夜	サポータティブハウス「メン・ドヴェュー・コスモ」	フォーラム実行委員会定例会 ▽「居住者事例集刊行記念・サポータティブハウス事業に関する中間発表フォーラム」(仮称)開催について ▽西成市民館建て替えプロジェクトを今年はどうすすめるか。 ▽「釜ヶ崎ボランティアセンター」(仮称)設立構想や「釜ヶ崎識字教室」開設準備状況、第1期釜ヶ崎ボランティア養成講座修了者の会の開催について。 ▽「仕事づくりワーキングチーム」の打ち上げの提案		20人	
36	02年2月12日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽2002年の活動総論について 運動の進展で各論的な議論や実践は各部門組織でなされるようになった。その全体調整(全体合意)を図る場として再生フォーラム月例会は機能するはずが、二番煎じや重複の議論の場になりやすくなった。そこで、地域全体を見渡し、まちづくりの原点に帰った「大きな議論の場」とすること。ここでつくったまちづくりビジョンの4つの柱に常に総論的に立ち返り、チェックする(修正し、発展させる)議論の場とした。		20人	フォーラムの内・外・周辺にさまざまな分科会的な小グループが芽を出し、動き始めたためである。
37	02年3月12日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽「居住者事例集刊行記念・サポータティブハウス事業に関する中間発表フォーラム」3/30開催準備について ▽「釜ヶ崎ボランティア連絡会」について *「3/2 釜ヶ崎識字教室」「3/2 菜園づくり」「3/2 料理教室」「4/7 車イスお花見」の取り組み状況や結果について一課題の注意深い把握と議論 *第2期講座(3/22-30)の準備状況チェック *ボランティアへのセクハラ対策について(4/6 研修的討論会の提案も含む) ▼ミニ講演会「台北・香港におけるホームレス支援対策から見えてくるもの」 水内俊雄さん(大阪市立大学・地理学助教授)		25人	この頃は左記の他に以下もあり、超多忙。(釜ヶ崎地域の高齢生活をささえる会)、HC財団の助成金決算書の作成(フォーラム事務局&釜ヶ崎居住COM)、アフターケア・マネジメント事業のまとめ(NPO 元気100倍ネット)、サポータティブハウス居住者の生活&意識調査の開始(釜ヶ崎居住COMと)等々。固有の行事、各団体・施設との境界線無しの協力事業ともにあり。
38	02年4月9日(火)夜	西成市民館	『脱野宿の実践-自立支援センター就労退所者支援マニュアル』配布とレクチャー&討論	水内俊雄さん(大阪市立大学助教授/監修者)	30人	*自立支援センター就労退所者28ケースへのアフターケア・マネジメント事業(+再テント者11ケースの調査)をまとめた報告書のこと(事業主体はNPO 元気百倍ネット)
39	02年5月14日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 & ミニ講演会 ▽3/22 佐藤裁判後の生活保護行政への影響、これからの生活保護はどうあるべきか等を語りあう。 ▽サンフランシスコの路上新聞やNPO活動の報告からヒントをさぐる	大谷隆夫さん(釜ヶ崎医療連代表) 小川裕子さん(木曜夜まわりの会のボランティア)	30人	野宿や施設からアパート移行時の敷金支給を実現させ、後年ふりかえれば、全国に絶大なる影響を与えた佐藤裁判。その地裁判決(3月)勝利直後の余韻のもと、方向性を語りあった。 後半は、アメリカの中では釜ヶ崎のまちづくり運動に一番よく似ている所ではないかと以前から言われてきたテンドーロイン地区のようすなども少し織りませながら、お話をうかがった。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
40	02年7月5日(土)夜	なんば市民学習センター	日米サポーターハウス経験交流会	ロザンス・ハガティ理事長 講演と意見交換&懇親	40人	NYが22年間ホームレス問題に取り組んできてわかったこと。①行政、NPO、企業といったすべてのセクターがこの運動を推進すべきである②プログラムの重要性。つまり、生きるという段階から自立して生きていくというところにつなげるために必要な、一貫したプログラムが不可欠。③包括的なプランニング。その人の人生そのものを支えていく(包括的)プログラムであること。仕事、精神的ケア、住居、すべてを包括的に支えていくものであること。仕事だけとか、カウンセリングだけとかはダメ。④ホームレスは解決しうる問題、治せる病気である、という認識をもつことが重要。
41	02年7月9日(火)夜	西成市民館	フォーラム定例会&ミニ講演会 ▽釜釜介護事業の近況。そこからコミュニティビジネスを考える ▽ボランティア活動とセクハラ問題	李洋佑(リ・ヤンウ)さん (NPO 元気 100 倍ネット事務局)	25人	ホームレス支援のコミュニティビジネスとして、「釜釜介護」や「生ゴミリサイクル事業」推進のNPOを支援。苦しい事業展開の中でのがんばりに人々の関心が集まる。
42	02年7月20日(土)夜	太子福祉館	居住 COM フォーラム 「サポーターハウス」居住者の居留意識・ニーズの調査報告	阪東美智子 (釜ヶ崎居住 COM 調査部長)	20人	報告された調査結果。 1) 居住者の大半が高齢で健康面に不安を抱えている、2) 飯場や簡宿など非住宅での生活経験が長く家事や家計管理の経験・知識が乏しい、3) 生活保護が金銭的制約・心理的抑制となりより高い次元への生活の質の向上を果たすことが困難になっている、などの居住者像が明らかに。生活再建の過程では、「サポーターハウス」の人的サポートが大きな役割を果たしており、居住者もこれを高く評価していた。また居住の安定によって健康状態の改善が見られたほか、社会奉仕など新しい生活要求が発生していた。しかし一方で、集団生活や地域社会になじめず生きがいを喪失している人もいた。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
43	02年9月10日(火)夜	西成市民館	釜ヶ崎のまち再生フォーラム実行委員会定例会▽これまでの3年間のふりかえりと、今後の活動方向▽財政報告▽新人事		40人	実行委員会メンバーを大幅増強(これまでの倍の36名に)。英代表、阪東・織田・水野3人の副代表(新設)人事なども決定した。事務局も居住COM委託からようやく自前での構成となった。新たな前進へ向かう。
44	02年10月8日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽「釜ヶ崎地域アルコール問題連絡会」(仮称)立ち上げの可能性について▽第3回ボランティア養成講座募集要項の発表と確認▽「メーリングリスト-釜ヶ崎のまち再生フォーラム」運営ルールに関する議論と確定 ▽財政基盤強化に関すること▽実行委員の補充(承認事項)▽西成市民館建て替えワークショップ(11/23)の準備について 2)ミニ講演会と議論 「NPO等によるコミュニティビジネスの展開(アメリカ篇)」講師:末村裕子さん (「市民活動の情報誌 NPO/NGO WALKER」発行人)		30人	「アルコール問題連絡会」(仮称)は、同10月1日の「釜ヶ崎地域の高齢生活をささえる会」月例会に30数名の関係者が集まり、大きな盛り上がりを見せたことがきっかけ。アルコール依存症専門病院である新生会病院のCWさんを囲んでの勉強会というかたちをとったが、当地域内外の施設・団体から大挙参加。今池平和寮、自彊館、作業所(のぞみ、いちご)、7つのサポートハウス+パブリック、NPO(医療連、支援機構、元気100倍ケアネット、国境なき医師団)、アルコールケースワーカー全国組織関西支部、大学、行政の有志等々。
45	02年10月29日(火)夜	陽だまり	「ホームレス問題NPOアライアンス(円卓会議)」準備会 学習会&意見交換会 ▽「さまざまな立場を異にする諸団体の協働をつくりだすには」「そのときの求心力は何なのか」実践的な立場で。	早瀬 昇さん (社会福祉法人 大阪ボランティア協会事務局長)	25人	成立したホームレス自立支援特別措置法にもとづく「基本方針」や「実施計画」に自分たちの提案を何を(What)どう(How)反映させていくか⇒行政と対等かつ実効力のある交渉ができるよう、NPO等民間団体の大きな連携づくりを立案。まちづくりでの連携とは別の連携の模索を開始。先達の障害者分野のNPO連合体の事務局長との学習会に続く学習会。
46	02年11月12日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会&ミニ講演会 「社会福祉協議会ってどんなところ?そして、西成区での在宅福祉への取り組み状況は?」	乾繁夫さん (西成区社会福祉協議会会長)	25人	そもそも論に始まり、「孤住し、うずもれた要介護高齢者をどう発見し、どう取り組むのか。私たちと既存組織とはどう連携が可能か」等が議論された。国道26号線の西側で地域福祉やまちづくりに取り組んでいる方々も「同じ区内として釜ヶ崎の問題を回避するわけにはいかない」という趣旨で参加された。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
47	02年11月23日(土)午後	太子福祉館	もしも西成市民館(または職安南分庁舎跡)を建て替えるとしたら? ワークショップその2	主催:萩之茶屋連合町会 協力:釜ヶ崎のまち再生フォーラム 進行役:阪東美智子さん(釜ヶ崎居住COM代表)	30人	1回目(01年6月30日)と違い、今回は主催者が町会でフォーラムは協力の。この間のまちづくりの進展を表す。定住する住民サイドからの市民館ニーズをさぐる。<よその街にあってこの街にないもの><よその街になくてもこの街だから必要なもの><今あってこれからもあるべきもの>等が語られる。最後はアクションも議論。この努力は、変則的ではあるが、2007年に指定管理者制度を活用して民間地域団体が管理・運営を担うという形で実を結ぶことになる。詳細は、 http://www.kamagasaki-forum.com/ja/index.html
48	02年12月10日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会▽西成市民館建て替えワークショップの結果と今後の進め方→キーワードの一つは「町会等と”新”住民(居宅保護層等)の共生および融合の場」であることが鮮明に▽簡宿活用「20室」プラン(新提案)の討議開始▽「まちづくり合同NPO法人」の立ち上げ案(新提案)		20人	
49	03年1月14日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会&講演 ”アイデアの宝庫”富田さんとまちづくりについて語りあってみよう	富田一幸さん(西成街づくり委員会、福祉のまちづくり実践機構、株式会社NICE、NPO釜ヶ崎支援機構その他)	30人	春のいっせいで地方選挙に向けて「投票へ行こう!社会再参加キャンペーン」の立ち上げの提案が飛び出した。
50	03年2月10日(月)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会&ミニ講演 ▽菜園しごとの年間プランづくり ▽課題別(今回は医療福祉問題)地域連携づくり ▽「(仮称)投票へ行こう!釜ヶ崎キャンペーン」実行委員会の立ち上げと活動内容や留意点について ▽ミニ講演 私のネットワーク/ネットワーキング論 講師:花立都世司さん(釜ヶ崎ボランティア養成講座実行委員長、識字教室「もじろうかい」世話人)		20人	年間作付けプランや収穫作物の活用方法、カマ通貨との組み合わせ、参加者の広げ方等。 また、「釜ヶ崎における医療・福祉を考える集い」(1/31)は医療現場関係者を中心に満杯の約40人が参集→ここを起点に、次は何をどうアクションするか。医療における地域独自の助け合いシステムをめざして。行政提案をめざして。それを検討した。⇒これはやがて「萩之茶屋たすけあいネット」になっていく。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
51	03年3月11日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会&ミニ講演会 講師:生田武志さん(NPO 団体野宿者ネットワーク) テーマ「体験論/野宿者問題をどう学びの場に取り入れるか~開発教育の視点から」		20人	野宿者問題の深刻化にともなって、当地域への訪問者、取材者などが増え、逆に講師派遣の要請も増える。野宿者襲撃の問題等を学校の授業などでどう教えるか、どう学びあうかはとても重要な課題。生田武志さんが先駆的に切り開いたこの分野について聞く。
52	03年4月8日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽「釜ヶ崎版地域別ケア会議」の早期召集に向けて~医療・福祉面における課題別 NPO アライアンス(仮称萩之茶屋たすけあいネット)づくりが進展し、公的システムへの結合が実現した経過、ならびにそのしくみの概要説明~ ▽「投票へ行こう!釜ヶ崎キャンペーン」は最後のヤマ場。ご協力を。▽「釜ヶ崎まちづくりマガジン」(仮称)の発行提案 ▽新 NPO の立ち上げについて▽まちづくり聴き取りキャラバン開始について ▽各種定例会日程の全般的見直しについて(再生フォーラム月例会の隔月化も含む)		20人	「地域福祉計画アクションプラン」にリンクして区に創設された「地域別ケア会議」。そのあいりん地域での受け皿としようと「萩之茶屋たすけあいネット(仮称)」設立準備会が進行中。地域の困難事例・先駆的事例を定期的に出し合い、専門家力も借りながら、地域で解決していける能力を高めていく。地域全体の問題を早期に発見し解決していく。今回は、このネットワークの設立に向けての話し合い(名称、趣旨、構造など)も行なった。
53	03年5月9日(金)夜	サポータイプハウス「メゾン・ドヴェュー・コスモ」	サポータイプハウス開設運営自主基準に関する討論会		15人	「サポータイプハウス」とは最低限どのような居住環境を整えたものをいうのか。その目的、設備や運営に関する基準、最低限のサポートプログラム、家賃、入居者・ボランティア・役所・地域社会との開かれた連携、第三者評価制度の受け入れ、居住当事者の選択権重視等の項目を話し合った。しかも、私企業なのにオーナーさんたちも「公的側面」も認識され、こういう開かれた場での議論となった。地域の人々の支持と支援を受けながら運営していくための懸命の姿勢だ。
54	03年5月13日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会▽サポータイプハウス開設運営自主基準に関する討論(5/9)の継続&補完▽『投票に行こう!社会再参加キャンペーン』の成果について報告と討論統一地方選挙は全国的に低調の中、釜ヶ崎(萩ノ茶屋投票区)だけは投票数(+527)、投票率(+1.55%)ともに伸びる! 地域諸団体の奮闘の大きな成果。		20人	こういう内容の議論ができるのは、この4年間の積み重ねを経て、同じ目標に向かっていくという実感を共有しているからだ。「野宿ではなく、量のうえで死ぬるまち」「老いても、安心して住み続けられるまち」をめざしているという目標。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
55	03年6月10日(火)夜	西成市民館	『萩之茶屋たすけあいネット(準備会)』立ち上げ会 区在宅介護支援センターが呼びかける高齢者対応の地域別ケア会議。その「あいりん地区版」が先月末に開催され地域の困難事例4例が提出された。無視され続けた地域としては画期的。そこへ結合する今後の地域の受け皿としてなるべく立ち上がった。座長にはわかかき保育園小掠昭先生。		40人	今月からフォーラム定例会は隔月開催とし、空いた月は同じ市民館・時間帯に「関連団体会議(複合あり)」とする試みを開始。理由は、月例フォーラム本体から派生した「分科会」的なグループや会合があまりに増えメンバーの重複もかなりあるための負担軽減措置。
56	03年7月8日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会 ▽支援法「実施計画」へ向けた再生フォーラムの「提案」について(水内俊雄教授のミニ・レクチャーも) その他 ▽サポーターハウス連絡協議会が発足 ▽「萩之茶屋たすけあいネット」(仮称)運営委員会づくりの現況 ▽7/10 韓国からの視察団受け入れ態勢 ▽菜園の会の強化、ならびにカマジャガ購入のお願い ▽野犬(かまワン)対策で地域団体の大きな輪。区と話し合う ▽「大阪市交通バリアフリー推進新今宮地区基本構想検討会議」への再生フォーラム代表委員派遣にあたって ▽NPO 法人「カマナビ」運営方針の説明と協力をお願い ▽釜ヶ崎夏祭りへの出店は新実行委員会方式を提案 ▽7/1に社会福祉法人釜ヶ崎ストロームの家がスタート ▽釜ヶ崎文化市場「日めぐり」製作グループの活動の経緯と現況紹介		20人	ホームレス自立支援特別措置法に関する国の「基本方針」が発表された直後の定例会。今月はそのことと、再生フォーラム独自で作成中の「実施計画への提案書」素案を議論。また、誕生した「たすけあいネット」の内実を豊かにし協働の輪を広げていくために、町会やNPO等地域諸団体の活動内容や問題点をききとるキャラバンを議論。これにより、上記実施計画への意見書を共同で出せないかも検討。
57	03年9月9日(火)夜	西成市民館	フォーラム実行委員会定例会&講演会 ▽ ネットワーク内の一介護事業所の事業運営やサービスのあり方、及びそれに対する当フォーラムの対応のしかたについて議論 ▽第4回釜ヶ崎ボランティア養成講座の準備について ▽自立支援法・実施計画へのフォーラム独自提案書の確定 講演会 NPO 寝屋川あいの会のまちづくり経験、そして“大阪版 CAN”(コミュニティ・アクション・ネットワーク)の創設について語る 講師:三和清明さん(同会理事長)		30人	一介護事業所の介護サービスのあり方、事業運営力をめぐってこの1年間ネットワーク内がくすぶっていたが、この日議論が爆発。フォーラムは「個人のネットワーク」であり、個別団体(間)の問題や個別ケア事案には関与しないという基本的立場と、しかし介護サービス利用者擁護の視点及び地域全体の利益や協働の促進にはまちづくり視点から関与するという側面の、両面の狭間で、対応力不足が露呈する場となった。しかも、フォーラムは新たに萩之茶屋たすけあいネット、ききとりキャラバン、西成市民館建て替え案づくり、等々のインキュベーター案件も加わり、もはや手一杯というところ。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
58	03年11月11日(火)夜	西成市民館	フォーラム定例会 緊急テーマ「5年目の再生フォーラム。何かもめてみたいけど、今どうなっているの?これからどうするの?」 (ネットワーク内の一介護事業所をめぐる対立に関してフォーラムとしての態度を表明した『10/1 声明』についての説明と質疑や討論。併せて、これまでの活動のふりかえりと今後の大きな方向について考える集い)		20人	9月ひろばの紛糾を受けて『10/1 声明』に至るまでは「拡大事務局会議」等での延々たる議論があった。発表後、「なんかもめてほしいけど、なんのこっちゃやさっぱりわからん」「わかるかたちで説明してほしい」という声に応えた集い。混乱のこれ以上の放置はネットワークの解体につながるとの判断からの声明発表だった。「透明でわかりやすい、開かれた運動」を標榜してきた立場からすれば苦渋の日が続く。
59	03年12月5日(金)夜	難波市民学習センター	まちづくり講演会&ワークショップ/第3ステージ ビジョンづくり「他地域の先進事例に学ぶ」	講師:藤田忍さん(大阪市立大学大学院教授)	15人	ビジョンのつくり方等についての他地域の先進事例を学びつつ、釜ヶ崎の場合について「居住」「医療・介護+生きがい」「共生」の3つのテーブルに分かれて討論した。
60	03年12月9日(火)夜	西成市民館	フォーラム定例会&講演会&サロン(トライアル) 利用者サイドから地域の介護事業所をチェックし、選択できるようにするための先進事例を学ぶ	小林房子さん(友-友) (吹田市・民間在宅介護支援ネットワーク)	20人	「定例会はやはり毎月開催に戻してほしい」という声が強く出たことに応えて、今月から再びそのように。かつ、8:20頃以後は「まちづくりひろば」=サロンの空間&時間にする試みを実施。講演は、利用者サイドから地域の介護事業所を監視・選択・レベルアップさせるために、吹田市では市民団体が介護事業所サービス一覧誌等を発行して情報提供している試みに感心。「西成区でもやりられないか」と。
61	04年1月13日(火)夜	西成市民館	第3ステージビジョンづくり・総論(12月5日の続きをやる)	進行役:事務局	20人	議論の中で見つけたものは「第3ステージの3つの目標」と「1つの大きな機能」。つまり、1)自分と西成に誇りが持てる街 2)労働者世界と町会世界など)さまざまなタイプの住民が仲よく安心して暮らせる街 3)人生のリターンマッチができる街(社会参加、再参加の内実がゆたかな街)。そして、人々がまちづくりに今一番望んでいるのは「ケアの困難事例における具体的な相互支援機能」。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
62	04年2月10日(火)夜	西成市民館	(釜ヶ崎のまち再生・第3ステージビジョンづくりシリーズ・第4弾) プレワークショップ/政府や大阪府の地域再生特区構想を私たちは活用できるか	平井啓一さん(大阪府地域福祉課担当職員)	25人	府地域福祉課から担当職員にも出席してもらい、国がよびかける「地域再生提案募集」に何か提案できるか、5~6本の案について検討した。本格的なワークショップのテーマ足りうるかのシミュレーションとして。
63	04年2月14日(火)夜	和歌山・御坊市の島団地	生活保護等貧困と格闘するまちづくりの視察(住民参加型で再生に取り組む島団地から学ぶ)	同団地居住者・地元自治体の推進担当者・神戸大学関係者(糟谷さんら)	15人	老朽化した西成市民館を地域高齢者向けの「萩之茶屋地域福祉総合センター(仮称)」に建て替えて、コミュニティ自体を(家族がなく、孤立した多くの高齢者でも住み続けられるように、かつさまざまなタイプの住民が共同で使用できることで共生が進むように)リデザインしようという構想を、再生フォーラムは推進中。萩之茶屋振興第6町会や地区社協の動きにも配慮しつつ、再生フォーラム独自でも他地区事例から学ぶものを吸収して準備しておきたい、建て替えへのモチベーションを高めておきたい、というのが趣旨。 島団地は60年代から生活保護率が驚くほど高く、「貧困のサイクル」を断ち切るために住宅の建て替えに住民参加のワークショップなどを長期にわたって積み重ね、改良住宅の設計に自分たちのアイデアを生かすなどして、コミュニティ再建を図ってきた。相違点も多いが、生活保護制度や住宅問題を機軸とすることなど、学ぶ点も多かった。
64	04年3月6日(土)午後	阿倍野市民学習センター	(釜ヶ崎のまち再生第3ステージのビジョンづくりワークショップ・第5弾)「特区」的発想で、釜ヶ崎でつくれるシゴト・できるモノ・やれるコトを出しあってみよう!	冒頭報告:田中太郎さん(大阪府健康福祉部地域福祉課担当職員)その他	30人	3つのテーブルのテーマ:「もしもあいりん総合センターの使用目的を広げることができるとしたら、何を開設したい?何をやりたい?」「もしも(生活保護受給者が)収入5万円までは働いても生活保護費が削られないことになったら、何がしたい?どんなことになる?」「その他、「特区的発想」を使って釜ヶ崎でつくれるシゴト・できるモノ・やれるコトって何かがある?」。サポートティブハウスやアパートに住み、野宿経験のある高齢者や現役日雇い労働者8人も参加し、自分たちの問題として、真剣かつ楽しく議論をする姿が印象的だった。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
						た。
65	04年3月9日(火)夜	西成市民館	フォーラム定例会 & まちづくりサロン 提案と討論 「釜ヶ崎のまち再生フォーラムの新しいあり方について」	提案:ありむら潜 (再生フォーラム事務局長)	20人	<p>昨年秋の大きなダメージ以降の議論の積み重ねと本日の正式な議論を経て、3月中旬には次のような改革案が形成されていった。</p> <p>①介護事業現場等・個別問題等はサポート現場部門の新ネットワークをつくって対処。「たすけあいネット」や「ささえ会」を合流させて、仮称「釜ヶ崎地域の在宅生活をささえるネットワーク」とする。</p> <p>②再生フォーラムの主事業は「まちづくりひろば」の管理とそこでのコーディネートに特化。全体ビジョンづくりやコーディネーター役や情報&人材集め等の全体対処を受け持つ。</p> <p>③上の両輪論に立ちつつ、むしろ①のネットが主軸、②は脇役という関係。</p> <p>④実行委員会方式の廃止。新設置の「ひろばサポート団体」(会員制)による運営。「ひろば」利用者は広い住民。</p> <p>⑤再生フォーラムは「フォーラム憲章」を創り共有理念を明確化。</p> <p>⑥「憲章」に反する参加者には「ひろば」からお引き取り願う措置ができる。</p> <p>⑦きちんとした定款を定めNPO法人化を視野に。</p> <p>⇒まちづくり市民団体としてのステップアップめざして真剣な議論が始まった。この後、半年間のさらなる議論と改革案の有効性検証を経て、9月のフォーラム「総会」</p>

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
						<p>で決定する。3月30日には上述「在宅生活ささえる会」準備会が開催された。</p>
66	04年3月16日(火)夜	今池こどもの家	研究報告会「大阪市産業連関表を用いた生活保護、ホームレス対策の波及効果と市財政への影響」	鈴木亘さん(大阪大学助教授)チーム	20人	<p>「阪神タイガース優勝で〇〇億円の経済効果」というシミュレーションの生活保護版をやってもらったもの。結果⇒大阪市内で生活保護費に国と市で計2000億円を投下しているが、最終的には2500億円の需要を引き出す。しかも市の負担分は500億円なので、市にはその5倍の経済効果があることが判明。へたな減税政策や公共工事よりも景気浮揚効果があることになる。ただし、地元の商店街で消費されるしくみを徹底すること、全体の6割が医療費が占めるのでここへの分析検討が課題ということ。しかし、重要な経済学的反論になっている。</p>

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
67	04年4月13日(火)夜	西成市民館	フォーラム定例会&まちづくりサロン▽再生フォーラムの新しいあり方(3/9フォーラムで提案された内容)の継続論議▽紙芝居劇「桃太郎ものがたり」制作・演出・出演:カマナビクラブに集まるお年寄りのみなさん約10人		20人	過去最もユニークで、笑いのある定例会だったといえる。夏祭りでのソーメン屋台出店でのつながり→自然発生的な「街角溜まり場(サロン)」→NPO「カマナビ」の支援を得て紙芝居劇グループとなったお年寄りのみなさん。「夜の時間帯でも講演できますか?」とお聞きしたところ、「だいじょうぶ!行きますせ」と言ってくれて、実現したもの。
68	04年5月11日(火)夜	西成市民館	「結核対策から見える、釜ヶ崎地域の健康問題」	西森 琢さん(NPO 釜ヶ崎支援機構/公衆衛生部門責任者)	20人	釜ヶ崎を「世界一」にしているもの=結核。これを再生フォーラムらしく、まちづくりの視点・立場から考える場となった。西森琢さんも「この問題こそまち全体で対処すべき。連携が重要」「今までは釜ヶ崎労働者を単一モデルでとらえて対処しようとしてきたが、かみあっていない。現役層・野宿層・居宅保護層などのように、階層別に対策をとるべき」「この街ではまず、結核や健康の正しい知識=健康教育という基本がとても重要。これは大きな予算なしでも取り組めること」と。
69	04年6月8日(火)夜	西成市民館	CANビデオ上映		15人	英国の有名な社会企業NPOであるCAN(Community Action Network)とはこの頃に何回かお会いする機会があり、貴重な活動紹介ビデオを入手できたので上映会とした。ロンドンの貧困区域の再生めざす先進的試みを学んだ。翌7月にもおおさか元気ネットワーク主催の交流会で直接お会いして人的交流が深まる。⇒<追記>やがて07年夏に紙芝居劇グループ「むすび」のロンドン公演派遣へとつながっていくことになる。
70	04年7月20日(火)夜	今池こどもの家	鈴木亘研究チーム報告会	鈴木亘さん(阪大助教授)チーム	20人	04年3月16日の研究結果発表の続編。課題とされた(保護費の中の)医療費への切り込み分析をしていたものだ。病院のレセプト等を参考に、野宿者や生活保護受給者の医療費を試算。野宿等で放置するより「病気の早期発見早期治療」が経済学的観点からも重要との結論に。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
71	04年9月14日(火)夜	西成市民館	釜ヶ崎のまち再生フォーラム「総会」 ～新組織形態で再出発めざして～		20人	<p>昨年秋以降介護事業所問題で混乱が続き、すでに形骸化していた実行委員会方式を正式解散。会員制の導入、新運営ルール(定款)、新運営憲章、新人事を決定した。</p> <p>その内容は、上記「04/3/9フォーラム定例会」の欄の改革案とほぼ同じ。これにより、新・釜ヶ崎のまち再生フォーラムとなった。</p> <p>なお、サポート現場をつなぐ新ネットワーク「釜ヶ崎地域の在宅生活をささえる会」はすでに本年4/30に発足した(「萩之茶屋たすけあいネット」と「釜ヶ崎地域の高齢生活をささえる会」が合流。座長は小掠昭先生)。</p> <p>⇒<後記>同ネットは07年2月にNPO法人格も取得し、西成市民館の指定管理制度移行の原動力となった。</p>
72	04年10月12日(火)夜	西成市民館	ビッグイシューの真実～京都での1年を振り返る～ ～契約関係からみえるホームレス販売員像、学生NGOの若人たちの協働、地域や大学との関係づくりなどについて	中嶋陽子さん(大学講師/NPO論、消費経済論)	20人	釜ヶ崎でホームレス支援活動やまちづくりに関わり、その経験や人脈を各地の活動に生かしている方々はたいへん多い。その中のお一人。逆に、釜ヶ崎が学ぶことも多い。
73	04年11月9日(火)夜	西成市民館	国境無き医師団(MSF)・日本の大阪市内での活動開始の事情を聞き、つながるための集い	医師の熊崎寿美さん、看護師の高橋知子さん、ソーシャルワーカーの加来容子さん、事務のファニー・ギヤマさん	30人	これまで「フォーラム」と呼称を今月から「まちづくりひろば」と改称。単なる名称変更ではなく、「まちづくりひろば」を地域に提供し、中立的なファシリテーター役に徹するための措置(組織形態変更)。本日、さっそく新しい社会資源を地域につなげる。
74	04年12月9日(木)夜	今池こどもの家	釜ヶ崎の防災・減災シリーズ(1) 講演会「備えよう地震孫・子の代まで」	住友則彦さん(神戸学院大学・人文学部人間行動学科教授)	15人	東南海地震・南海地震・上町地震、いつ起きてもおかしくないメカニズムと、そのときの恐るべき被害等が語られる。大津波の予測も。対策とはまず「知る」ことからということで数年にわたる長期シリーズ開始。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
75	05年1月11日(火)夜	西成市民館	釜ヶ崎の防災・減災シリーズ(2) 西成区の防災対策～市民防災研修アクションプランを中心に～	平井隆さん (西成区区民企画室長代理)	15人	阪神大震災後、行政では市防災計画にもとづいてかなり準備はできている。連合町会レベルでも地域防災リーダー15名の選出や訓練等を毎年している。が、労働者(支援団体)レベルでは全く無防備。行政もこの膨大な層には対策をとっていないことが判明。
76	05年2月8日(火)夜	西成市民館	釜ヶ崎の防災・減災シリーズ(3)「支援団体やボランティアは防災や災害時に何が出来るか～阪神地区の経験から学ぶ～」	寺本弘伸さん (日本災害救援ボランティアネットワーク理事)	14人	問題山積の釜ヶ崎には支援団体が分厚く存在する点が防災面でも強み。初動の72時間の混乱を乗り切ればいち早く立ち直れるかも。そのためにも避難所は「みんないっしょの”つぼ型”ではなく、サラダ型がよい。あいりん総合センターの活用が効果的。結局は防災は人と人の日頃のつながり等が導き出された。
77	05年3月19日(土)昼	大阪市立阿倍野防災センター	釜ヶ崎の防災・減災シリーズ(4)大阪市立阿倍野防災センターでの体験学習	居宅保護(一般アパート居住、サポーターハウス居住両方)や半就労・半生活保護の高齢者を中心に13名	13人	「公助1・共助2・自助7」が言われているので、「自助」の意識を促進しようという企画。ここには大画面あり、映画のようなセットあり、過去の大地震の振動、地震発生直後の街並み等を体感。「よお踏ん張っとかんと足腰がガタガタや」とおっちゃんたちも真剣そのものだった(笑)。
78	05年4月12日(火)	西成市民館	「はなすこと・きくこと・よりそうこと ～紙芝居とハーモニカでほんのりと～」	「お寺の出前の会」 宮本直樹さん(1号庵) 浄土真宗本願寺派・観念寺住職 大崎信久さん(2号庵) 浄土宗・安福寺住職	25人	釜ヶ崎ではキリスト教系の活動は活発だが、仏教系は珍しい。この日が「新歴史の始まり」かも。
79	05年5月10日(火)	西成市民館	“おおさかカオサン通りプロジェクト(仮称)”って何だんねん?	西口宗宏さん(「ウェルフェアマンション『おはな』」経営者)松村嘉久さん(阪南大学国際コミュニケーション学部助教)	20人	簡易宿泊所の新活用法による釜ヶ崎の新しい役割がいよいよ本格化。福祉化路線だけではない、元気な釜ヶ崎を語り合う
80	05年6月4日(土)	阿倍野デックス	ミニワークショップ 台北・ソウル・大阪のホームレス支援施策	楊運生さん(台北市政府社会局社会工作人員) 丁恩一さん(韓国全国失職露宿者対策 宗教・市民団体協議会事務局)	40人	大阪市立大学水内教授らの東アジアホームレス調査プロジェクトとの協働

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
81	05年7月12日(火)	西成市民館	紙芝居劇団公演と語り合い ○演目「ぶんぶく茶釜」 ○「自主運営」に向かっ てのあいさつ、別名「独立 宣言」(おっちゃん代 表) ○ささえ方について の議論(関係する有志に よる状況報告や提案)	紙芝居グループ「むす び」のみなさん	25人	元野宿の高齢者たちの こんなサークルが釜ヶ 崎で育つなんて画期 的！支援の輪の出発式
82	05年9月13日(火)	cocoroom (フェスティバ ルゲート4階)	出会い、交流、協働のプ ラットホーム「起業家カ フェ」でお会いしましょう	上田假奈代さん (NPO法人 cocoroom 代表、詩人)	30人	おおさか元気ネットワ ークの「出前カフェ」を共 催としたもの。ねらいは 社会起業家の掘り起こ し
83	05年10月11日(火)	西成市民館	「いま話題の厚労省の “自立支援プログラム”っ てなんやねん？～釜ヶ崎 のおっちゃんたちもシッカ リ考えよう～」	<1>加美嘉史さん(大 阪体育大学健康福祉 学部講師) <2> 水内俊雄さん (大阪市立大学教授) <3> カマヤんたちと 支援者たちはこう考える (討論)	30人	政府や行政の動きをい ち早く察知し、いち早く 構える。しかもおっちゃ んたち自身が、というス タンスで。
84	05年11月8日(火)	西成市民館	「今、東京で起きているこ と～釜ヶ崎のおっちゃん たちも支援者たちもシッカ リ学ぼう～」地域生活移 行支援事業を中心に	安江鈴子さん(NPO 法 人新宿ホームレス支援 機構、季刊「シェルター レス」編集者)	30人	今度は運動の側の最新 情報をつかむ。釜ヶ崎 の経験と共通するのは 「ハウジング・ファースト」 の考え方
85	05年12月13日(火)	西成市民館	「古き釜ヶ崎をたずねて、 新しき釜ヶ崎を知る」～ 今、つくられたまち釜ヶ崎 の史実を問う～	吉村智博さん(リバティ おおさか・大阪人権博 物館 学芸員)	30人	「日本橋の名護町スラム →現在地に強制転居」 論を見直す。実は「宿」 がキーワード。釜ヶ崎成 立は1904年頃か。
86	その1) 06年1月20日(金)	大阪人権博物 館/リバティお おさか	大阪人権博物館/リバティ おおさか 見学ツアー	吉村智博さん(同館学 芸員)が案内	13人	釜ヶ崎やホームレスの 問題を人権の視点から しっかりとらえ直す。お っちゃんたちの遠足も 兼ねて。
87	その2) 06年1月21日(土)	大阪市立阿倍 野防災センタ ー	釜ヶ崎の防災・減災シリ ーズ(5) 防災体験学習ツアー	全員	15人	釜ヶ崎では防災問題ま で手が廻らない団体が 多い。そこでまずはわ れわれがそれを示す。 おっちゃんたちの遠足 も兼ねて。
88	06年2月14日(火)	西成市民館	「激減するばかりのアプ レ手帳。いったいなぜ？ どうする？地域への影響 は？最近の求人増の傾 向や飯場の数減少の実 態は？」	海老一郎(えび・かず お)さん(西成労働福祉 センター労組書記長)	25人	釜ヶ崎はもともと労働者 の街。その深奥で起き ている重大な流れに迫 り、ともに考える

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
89	06年3月14日(火)	西成市民館	釜ヶ崎のおっちゃんたちと浪速のニートのおいちゃんたちの出会いの夕べ～まずは語り合うことから始めよう。最下流のこの地で～	「いしくんぼ」さん ニート芸人(引きこもり20年)	15人	高齢者型野宿者問題解決に一定のメドが見えてきた中で、早くも若者型に対策の目を喚起することがねらい。
90	06年4月11日(火)	西成市民館	西成区生活保護受給者聞き取り調査結果の全容	水内俊雄さん (大阪市立大学教授)	40人	この数年激増した、脱野宿の居宅保護者等への大規模調査結果をどこよりも早く知れるとあって、ふだんにない顔ぶれ多数が参加
91	06年5月28日(日)	平野区平野郷一帯	平野区の「町ぐるみ博物館」めぐり	まちづくり講和 川口良仁さん(全興寺住職)	13人	古い釜ヶ崎の誇りを残し、新しい釜ヶ崎をどうつくるか、楽しみながらそのヒントをつかむ。おっちゃんたちの遠足を兼ねて。
92	06年6月13日(火)	西成市民館	「ホームレス支援の立場から、地域福祉資源としての仏教を考える」	川浪 剛さん (浄土真宗大谷派僧侶)	10人	「仏教って本来、”排除された人々”の問題にこんなにとりくんできたのか！」と新発見。参加者最少人数ながら中身は最も濃かったかも。
93	06年7月11日(火)	西成市民館	「スライド写真を見ながら、語り合おう、釜ヶ崎の今昔。明日に誇りを引き継ぐために」 ～釜ヶ崎の生き証人たちが語り合う夕べ～	ファシリテーター 原口 剛さん (大阪市立大学・院生、地理学)	21人	おっちゃん参加型ひろばをさらにすすめて、老いてもなお元気なカマヤンOBたちが思いっきり語れる場にした。そしたら、想い出すわ思い出すわ…。
94	06年9月12日(火)	西成市民館	「釜ヶ崎・新世界が映っているロケ映画から昔の風景を取り出し、語り合おう。元気だった頃を思い出そう、明日に誇りを引き継ごう」	ファシリテーター 原口 剛さん (大阪市立大学・院生、地理学)	25人	「ビリケン」「太陽のひろば」等を事例に街空間の変遷をなぞる。否定的描かれ方に怒りも。「だからまちづくりがたいせつ」と確かめ合えた夕べ
95	06年10月18日(火)	紀州街道	鳥の目虫の目紀州街道～まちづくり意識醸成スタディツアー～	ガイド役 松村嘉久さんとそのゼミ生 (阪南大学教授)	20人	釜ヶ崎を南北に貫く街道ロマンに沿って、わが街を別視点で見るシリーズ。健康・つながりづくりも兼ねた老若合体型アクション企画
96	06年11月14日(火)	西成市民館	<釜ヶ崎形成史見直しシリーズ続編>「1920年代の都市大阪と「釜ヶ崎」	吉村智博さん(リバティ おおさか・大阪人権博物館 学芸員)	20人	当時の木賃宿街内部の暮らしぶりや人口伸縮。公園シェルターもすでに議会で提案されて、今昔変わらず。今回は、率先して戦争体制に協力する哀しき釜ヶ崎を学ぶ…

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
97	06年12月19日(火)	市大・西成プラザ(太子福祉館)	市大西成プラザ開設記念フォーラム「石油王とハリウッド～1930年代のロサンゼルス～」 ▽市大都市研究プラザと共催	フィリップ・エシントン(南カリフォルニア大学教授)	50人	この地に調査・研究・実践で関わってきた市大自身がプラザ(ひろば)を開設。再生フォーラムの「ひろば」と新たな協働へ向かう起点に。
98	07年1月9日(火)	西成市民館	<緊急テーマ> 釜ヶ崎「住民票問題」の本質を問う～現場での対応を考えるために～	笹沼弘志さん(静岡大学教授・憲法学)	60人	マスコミによる実情無視・無理解の全国報道に不安と怒りを抱えて、会場は地域横断的な顔ぶれで盛況。「ひろば」はおおいに機能発揮。
99	07年1月15日(月)	市大・西成プラザ	<釜ヶ崎の防災・減災を考えるシリーズ(6)> 防災 De わがまち見直し散歩+防災座談会「平常時にできること」	田中稔昭さん(NPO 日本災害救援ボランティアネットワーク理事長)	12人	地味なテーマのため予想どおりささやかな集まりだったが、このシリーズ初めて3人もの町会長さんが参加。「多様な住民層の融合」という意味で画期的。
100	07年2月13日(火)	西成市民館	「循環型社会のすきまで生きる釜ヶ崎」あるいは、「空き缶・新聞紙回収は泥棒か？」～リサイクル問題専門家が見た釜ヶ崎の位置と意義～	渡辺信久さん(大阪工業大学教授・工学部環境工学科廃棄物共存研究室)	20人	中国等を含む国際リサイクルが国内システムを破綻させているのに、国や自治体は今もへんな条例を。「社会的コスト論ではアルミ缶回収が福祉の肩代わりをしている面も計算すべき」と。
101	07年2月28日(水)	西成市民館	<続・緊急ひろば> 行政史に残る愚挙を大阪市ならびに全国でやらせないための講演と討論・釜ヶ崎まるごと集会	笹沼弘志さん(静岡大学教授・憲法学)	50人	住民票消除阻止に連日動いている運動体、裁判中の原告、とまどう新聞記者、提案する簡宿経営者など多角的な討論と情報交換の場となった。
102	07年4月10日(火)	西成市民館	<釜ヶ崎の歴史見直しシリーズ続編> 戦争は日雇労働者を元気にする!?	吉村智博さん(リバティおおさか/大阪人権博物館 学芸員)	30人	なんと刺激的なタイトルか。内容もショック。今回は珍しく神父さんやシスターなどキリスト教関係者もすっ飛んで来られた。テーマによって当ひろばの参加者はかくも多彩。
103	07年5月8日(火)	西成市民館	<釜ヶ崎の歴史見直しシリーズ続編> 「飛田新地って、ほんとは何?釜ヶ崎との関係は?釜ヶ崎訪問者にどう説明したらいいの?」	加藤政洋さん(立命館大学文学部准教授)	21人	新世界・飛田遊郭・釜ヶ崎と3点セットとされてきた。が、史実は違う。新世界開発の一環として(南北に人の流れをつくる。その通路がジャンジャン横丁)飛田はできた。なるほど。見直しシリーズは盛り上がる。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
104	07年5月20日(日)	南霞町駅～阿倍野墓地に通じる一帯	<釜ヶ崎成立おおよそ100年記念> ワシらの足元は歴史ロマンにあふれている。 鳥の目虫の目・紀州街道歩き～その2～	ガイド:水内俊雄さん (大阪市立大学大学院教授・地理学)	36人	カマやんたちにココルーム系、市大・阪南大・立命大などが加わり、総勢36名の大ツアーに発展。「歴史散歩道マップをつくらうか」という声があがる。
105	07年6月12日(火)	西成市民館	もう一つの全国ホームレス調査～ホームレス『自立支援法』中間年の見直しに向けて～ 虹の連合 調査分析:大阪就労福祉居住問題調査研究会	水内俊雄さん (大阪市立大学大学院教授)	40人	再生フォーラムも協力して1年かけた民間調査の結果発表を2時間も熱心に聴き入る人々。「参加できないが、資料だけでも確保してほしい」という声も行きかい、今回も「ひろば」機能発揮とを感じる。
106	07年7月10日(火)	西成市民館	紙芝居劇グループ「むすび」のロンドン上演リハースルと語り合い 演題「ブンちゃんの冥土めぐり」	「むすび」のみなさん	20人	釜ヶ崎にこんな居宅保護者グループが生まれ活動していること自体、驚き。ずっと見守ってきた人々、見るのは初めてという人々等による壮行会兼アドバイスの場となった。
107	07年9月11日(火)	西成市民館	ギャンブル依存症とは何か。そして、自助グループにつなげるまでのお話	滝口直子さん(大谷大学教授・ギャンブル依存症の治療研究&実践家)	26人	この依存症はなぜ起きる?どうすれば出口へ向える?この際きちんと向き合おうと。单身ゆえに底つきが容易に来ない「釜ヶ崎またはホームレス型」への対処法も話題となる。
108	07年9月27日(木)	市大・西成プラザ	東京のNPO「自立生活支援サポートセンター・もやい」との経験交流	もやい側:稲葉剛さん(理事長)他 釜ヶ崎側:川浪剛さん(浄土真宗僧侶)他	42人	単身高齢者・神父・お坊さんら参加のもと、(長年の懸案)「安心して死ねる」べく、自前の葬式やお墓の持ち方を本格議論。記録映画「コーヒー焙煎プロジェクト」も上映し、示唆受ける
109	07年10月9日(火)	西成市民館	短編映画『釜ヶ崎のレーニン』と、紙芝居グループ「むすび」のロンドン上演録画上映	映像アーティスト・森村泰昌さん 紙芝居劇グループむすびのみなさん	80人	エキストラ(特掃や生活保護の人々)120名を臨時雇用して釜ヶ崎ロケした作品の発表会。むすびは快挙の報告。緊急宿泊所入居者、一般市民、若者なども来て立見席に。「ひろば」機能絶好調。
110	07年11月13日(火)	西成市民館	散歩好きな単身高齢者や安宿街外国人旅行者用に『釜ヶ崎界隈歴史散歩道』案内のデジタルシステムを創ろう	内田敬さん (大阪市立大学工学部・准教授)	21人	阪南大観光学科も参加。先ず釜ヶ崎内部のスタディ・ツアーからデジタル案内方式を導入することになり、ワーキングチームを結成。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
111	07年12月11日(火)	西成市民館	釜ヶ崎の単身高齢居宅保護生活者の必要生計費＝生活扶助基準をさぐるミニ・ワークショップ～厚労省「生活扶助基準に関する見直し検討会」と比較検討しながら～	進行役:加美嘉史さん(大阪体育大学福祉学部専任講師)	25人	当事者が自分でする生計費計算に立ち会うことで、「生活保護基準をさらに削るなんてとんでもない」という実感を共有した。「ひろば」らしい対抗策かなと。
112	08年1月15日(火)	西成市民館	私たちの命を地震や台風から守るための、わかりやす～いお話～「釜ヶ崎の防災・減災を考える」シリーズ・その7～	茂岡一政さん(CVV(シビル・ベテランズ&ボランティアズ))	28人	大正区の小学校向け防災出前授業用パワーポイント映像で、地震対策と台風対策、大阪平野の歴史を学び、語り合う。ささやかでも「継続は力なり」を信じて。
113	08年2月12日(火)	西成市民館	釜ヶ崎を変える”国際安宿街プロジェクト”の今とこれからを語り合う。その進展具合と課題。地域全体の底上げにどうからませられるか。	山田英範さん(簡宿委員会OIG委員会メンバー。カオサン視察報告者)	20人	すでに1日200人近くが界限に宿泊。カオサン等の経験では今のうちに広く議論し、地域全体のプラスになるしかけづくりが必要と。人と人の新しい出会いの場づくりにできないかと。
114	08年3月11日(火)	西成市民館	あいりん総合センター内外における新旧・日雇い派遣の実相があなたには見えていますか?～久しぶりに釜ヶ崎の心臓部分・あいりん総合センターの諸問題に迫る～	西成労働福祉センター職員の労働組合の方々	26人	日雇いの就労ルートがあいりん総合センターより外へ拡散している現状、しかし携帯電話で手配されるのは4%でしかないこと、地方分権一括法での国の監督責任の範囲の問題などが議論された。
115	08年4月27日(日)	堺方面～	～鳥の目虫の目・紀州街道歩きシリーズ その3～自由都市堺の歴史群→就労自立支援住宅「オikos堺」まで	案内人は水内俊雄さん(大阪市立大学都市研究プラザ教授)。ご協力は同西成プラザ	18人	1680年の自由都市堺の古地図にもとづいて歩く。堺に中心街が無いのは城下町ではなく、自由都市だったため等を実感
116	08年5月13日(火)	西成市民館	日本における犯罪や刑務所の実態、出所前後の社会復帰支援等はどうなっているか?ホームレス問題や釜ヶ崎の問題とむすびつけて考えてみよう。	浜井浩一さん(龍谷大学法科大学院教授/刑事政策、犯罪学、社会調査、統計学・犯罪心理学)	35人	「犯罪は減っているのに、刑務所は満杯!」の理由を鮮烈解明。本来なら福祉施設が受け皿になるべき高齢者、知的・精神障がい者等が放置されている衝撃実態が語られる。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
117	08年6月10日(火)	西成市民館	更生保護って何だろう？そのしくみと実態を知ろう。釜ヶ崎との深い関わりも ～ミニ・シリーズ「刑務所出所者と釜ヶ崎」その2～	西原実さん (法務省大阪保護観察所保護観察官) (西成区担当4年目のベテラン)	28人	上記講演に衝撃を受けて、急ぎシリーズに。同じタイミングで西成区に「刑余者支援ネットワーク」が結成され、再生フォーラムも参加するというアクションにつながる。
118	08年7月8日(火)	西成市民館	保護司さんの話を通して、刑務所を出た人々の西成区やあいりん地域における生活実態と社会的包摂の諸問題を学び、考えよう ～ミニ・シリーズ「刑務所出所者と釜ヶ崎」その3～	又野信也さん (西成区の保護司)	20人	5件の事例を紹介。保護司の役割は出所者受け入れ地での「環境調整」。浮き彫りになったのは釜ヶ崎の地域資源の厚さ、サポーターの多さ、たくましさ。
119	08年9月2日(火)	西成市民館	ここらでもう一度考えてみる、「まちづくりって何だろう？」 各地の少数派の人々のまちづくり事例もまじえて～萩之茶屋小学校・今宮中学校周辺まちづくり研究会と共催～	寺川政司さん CASEまちづくり研究所代表 (まちづくりコンサルタント、建築士)	20人	居宅保護生活者・支援団体メンバーと町会・社協関係者が同席し、まちづくり原論や事例を学ぶ。町会側との共催は画期的な到達点。「住民の融合」へ希望湧くひろば。
120	08年10月19日(日)	箕面市北芝地区	～紀州街道歩き・番外編～ ずっと北上して、箕面市北芝地区のまちづくり訪問 &秋の箕面滝道の散策	仲介は上記まちづくりコンサルタントの寺川政司さん 案内は北芝地区のまちづくり若手リーダーの方	17人	上記のひろばから生まれた企画。同じ「社会的条件不利地域」でのまちづくりの息吹を吸収。箕面の溪流沿いの森林浴で心身もリフレッシュ。
121	08年10月28日(火)	市大・西成プラザ(太子福祉館)	<臨時ひろば> 韓国カトリック貧民司牧委員会との貧困地域支援日韓交流会 ～市大都市研究プラザと共催～	【韓国側】韓国カトリック貧民司牧委員会の牧師さん、縫製協同組合のみなさん 【日本側】美交工業、NPO エスアイ協会、再生フォーラム	27人	韓国版「社会的不利条件地域」における仕事づくりとの、国を超えた経験交流。韓国・縫製工の女性の方々も6人参加。
122	08年11月11日(火)	西成市民館	「釜ヶ崎写真ライブラリー」づくりのワークショップ(その1)～古い釜ヶ崎の写真を1枚1枚鑑定→分類→タイトル付け作業の夕べ～	オールド釜ヶ崎を懐かしむ参加者全員がスピーカー マライブラリー実行委員会、および市大都市研究プラザと共催	30人	地域に散在している貴重な写真や映像をデジタル化で統合&共同使用できないかと、もちあがった試み。毎日新聞夕刊1面にも報道されるほど盛り上がる。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
123	08年12月9日(火)	西成市民館	先月の盛り上がりに対応して、今月もだ。 同ワークショップ(その2)	先月に同じ	20人	これらの写真は、2009年6月に開設した『カマン!メディアセンター』(動物園前本通り商店街)で街頭に向けて放映され続け、街のちよつとした名所になつてつある。
124	09年1月23日(火)	西成市民館	暗い世相に負けへんで!まちづくりビジョン磨きだ! ～萩之茶屋小学校・今宮中学校周辺まちづくり研究会と共催～	ゲスト(むしろ聴き役):萩小・今中まちづくり研究会メンバー 説明役:ありむら潜(再生フォーラム事務局長) 進行役:寺川誠司さん(同研究会アドバイザー)	19人	再生フォーラムがこの10年間に蓄積してきたビジョンを披瀝し、学び合い、2つのまちづくり団体の共同課題をさぐる。こうしたことがようやくできるようになった感慨ひとしお。
125	09年2月10日(火)	西成市民館	ホームレス問題と住民票シリーズ・2年ぶりの第3弾 「全居住者への定額給付金?住居と資格の喪失」	笹沼弘志さん(静岡大学教授・憲法学)	40人	政策自体は愚策でも居住不安定者が排除されてはならないという原理を学ぶ。野宿者や派遣労働者も「フシはもえるのか」と関心が高く、ふだんにない参加者。
126	09年3月24日(火)	西成市民館	釜ヶ崎という地域から見る派遣労働の今と昔(座談会方式で)	オールド派遣(寄せ場労働者)とニュー派遣の経験者たち、及び支援団体スタッフ	20人	新旧派遣現場でのリアルな体験が語られる。双方の相違の核心は「労働の中でスキルが蓄積されるかどうかだ」とのとらえ方が大勢になった。
127	09年4月14日(火)	西成市民館	サブカルチャーに残る釜ヶ崎の記録を追う その(1)カマヤン漫画は底辺労働をどう「記録」したか 検証スライドショー <裏テーマ>まぜヒトは釜ヶ崎を表現したが、記録したがるのか。その根源を考える ～釜学研究会と共催～	ありむら潜(漫画家)	35人	19世紀型タコ部屋労働から21世紀型NPOによる仕事づくりまでが、たしかに釜ヶ崎内側からの証言として描かれていることを参加者は実感。
128	09年5月16日(土)	市大・西成プラザ	春の野菜収穫祭 兼「ブレ・畑サミット」 ～朝採り野菜を食べながら、「畑」を語り合う・のんびり土曜の屋下がり～	“放置農法”でも育ててしまったタマネギ君、セリちゃんたち	17人	10人弱の生活保護の高齢者の方々が来て和気あいあい。再生フォーラムの畑(和泉市)とココルームの畑(奈良)の、ともにシロートの経験談を分け合う。本篇をいつか。
129	09年6月8日(月)	西成市民館	英国“ホームレス支援&出演オペラ”代表者のお話を聞き、学び、日本でも吸収できることを語り合うタベ	マット・ピーコックさん(英国ホームレス自立支援団体「ストリートワイズ・オペラ」代表)	26人	表現のプロを交えた日常的な取り組みと年1回の高度な公演の組み合わせのノウハウは学ぶもの→2ヶ月後に水都おおさか祭でのむすびグループとの共演に発展

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
130	09年6月9日(火)	西成市民館	たまゆら火災問題から何を学ぶか。東京・山谷からの緊急提案、及び支援モデルの実践報告～高齢生活困窮者が安心して生きていける「支援付き住宅」をこそ～	水田 恵さん他(NPO法人自立支援センターふるさとの会)	22人	同会のこの10年の発展の内実は「ホームレス支援と地域おこしを実際に結びつけて実体化してきたこと。その基礎は支援付き住居づくりだった」と。ハコモノからケアする人に予算をつけるしくみを提案
131	09年7月14日(火)	西成市民館	じゃリン子チエちゃんの“同窓生”たちがざっくばらんに、釜ヶ崎や学校時代を語る～萩之茶屋小学校統合問題を考える一助として～	Aさん:萩小には1971年(1年生)～1973年(3年生)在学 Bさん:萩小には1983年～1989年在学 Cさん:あいりん小中学校に60年代に在学	17人	「地域や労働者の見方は親が教えないとわからない。労働者との共存や未来につながらない。自分は大人になってから理解したが、親たちは教えなかった」など胸を打つ言葉多数
132	09年9月8日(火)	西成市民館	リーマン後のホームレス問題の変容をつかみ直す～全国・大阪・釜ヶ崎の今～	松繁逸夫さん(釜ヶ崎夜間学校) 水内俊雄さん(大阪市大都市研究プラザ) 海老一郎さん(西成労働福祉センター)	35人	若年化・短期化・生活保護全面適用が全国的に進む中で、とりわけ生活保護適用後の支援の新枠組みを地域絡むみでつくる歴史段階に入ったことが浮き彫りに。
133	09年10月13日(火)	西成市民館	今、市民としての哲学をもう一度磨き直そう。生き方・活動・事業などをまるごと引っ張る「大きな理念」を思い出すタベ	岡本仁宏教授(関西学院大学/政治哲学,NPO/NGO論)	10人	他行事が重なり小人数ではあった。が、古代から現代までの市民社会論の体系的把握から「自己決定権の意味」、「制度の谷間に制度を創造する市民的気概」論議が盛り上がる。
134	09年11月10日(火)	西成市民館	ベーシック・インカムとベーシック・インカム(釜)	鈴木亘さん(学習院大学経済学部教授)	25人	生活保護適用のハードルがまだ高い状況下に流行のこのBI制度を釜ヶ崎等に適用した場合等も学ぶ。部分適用は効果あるも、憲法25条の生存権主張するならばやはり生活保護制度が有効の印象
135	09年11月日(火)	旧・庚申街道	(紀州街道歩きシリーズ改め)つながり発見・歴史街道歩きシリーズ 庚申街道歩き	案内人は水内俊雄さん(大阪市立大学都市研究プラザ教授/地理学)。同西成プラザとの共催 ▼なお、08年からこの「ひろば」は大阪市大西成プラザとの共催がほとんどになる。	25人	もう紀州街道にこだわらず、縁のある街道も楽しもうと修正。JR天王寺駅付近の今はビルの谷間の田んぼの畦道跡なども歩く。
136	09年12月日(火)	西成市民館	「ケア・支援補助金」制度の創設で、釜ヶ崎のまちを大きくステップアップさせよう! ～提案とアクションの起点の一つとなるタベ～	鈴木亘さん(学習院大学経済学部教授)その他「ケア・支援補助金」問題に関わっている人々	45人	政権交代でこの制度実現可能性も高まったので、支給方法や財源論など具体的な内容まで踏み込んで検討。ホームレス支援全国ネットの政府交渉を注視していくことになる。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
137	10年1月12日(火)	西成市民館	今年こそ、もっと地域のみなさんとつながりたい」、各職員労組ホネットーク ～地域の総力を引き出すための新春縁結び座談会～	釜ヶ崎地域関連の公的機関労組の方々 大阪市役所・西成区役所、西成労働福祉センター、大阪社会医療センターの各職員労組から	40人	地域の変貌やまちづくりにつながりきれていない領域への待望の企画。住民と業務の狭間で悩み続けてきた各機関職員さんたちにはうれしい受け皿。率直な語りあいとされ、今後につながるか。
138	10年2月9日(火)	西成市民館	もっと地域のまちづくりにつなげたい人的資源、今度は西成が生んだラップ・ミュージックの旗手～地域の総力を引き出すための縁結び座談会シリーズ～	SHINGO☆西成さん味付けスピーカー:松下隆さん(あいりん小中学校卒業生)川浪剛さん(浄土真宗僧侶)	30人	地元への思いをラップも入れて語るシンゴさん。ネットで知ったシンゴさんの追っかけ若者たちも混ざって、一味異なる集まりに。松下さんらの釜ヶ崎育ちの話にも感動。
139	10年3月9日(火)	西成市民館	萩之茶屋小・今宮中周辺まちづくり研究会拡大会議のまちづくり構想の説明会 ～みんなが納得できるまちづくりを考える機会とするために～	同研究会の方々(町会長さん、地区社協会会長さん等) 同拡大会議参加の支援団体のみなさん	35人	朝日新聞「市が公園テント撤去計画」報道騒動を乗り越えるべく開催。運動団体と町会や社協関係者などが一堂に会し率直に激論。まちづくりの視点で議論したことは釜ヶ崎始まって以来かも。分断を超え、「信頼関係づくりの一里塚」になったと信じた。再生フォーラムとしてもこの10年間の活動の最先端の到達点。
140	10年4月11日(土)	西成プラザ	春のお花見&バーベキュー	平均年齢76歳の紙芝居劇グループ「むすび」との共催	30人	生活保護の高齢者(日雇い労働者OB)たちが気軽に参加できる「ひろば」にと企画。なんと1歳から91歳まで参加。踊りや歌も。究極の「無縁社会」釜ヶ崎で寄り添いあう姿は心温まるものだ。
141	10年5月18日(火)	西成市民館	釜ヶ崎という「地域」を見直す。萩之茶屋・花園・太子・山王・飛田それぞれの区域の歴史や固有性を見直す。 ～もっとまちづくりに近づくために、とことんローカルに～	ゲストスピーカー: 原口剛、水内俊雄、松村嘉久、平川隆啓、加藤政洋、吉村智博のみなさん	44人	この地味なテーマに用意した資料が足りないほどの盛況ぶり。内容も2時間では無理なほど豊富。簡易版・平易版を居宅保護の人たち向けに、昼間実施したらという声も。当地域に市立大学の存在があればこそその強み。
142	10年6月8日(火)	西成市民館	多重債務問題。釜ヶ崎ではどうなっている?どう向き合う? ～被害者の会「大阪いちょうの会」の釜ヶ崎デビューを機に考える～	植田勝博さん(弁護士/大阪クレジット・サラ金被害者の会、通称「大阪いちょうの会」代表幹事) &被害者の方の体験談	22人	この「まちづくりひろば」の役割は、地域内外の「人材・制度・施設・資金・ノウハウや経験・調査結果・情報」を結びつけ合うこと。「老いても、一人でも、住み続けられるまちづくり」のために。今回はそれにふさわしい団体の「デビュー

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
						支援]であった。
143	10年7月 13日 (火)	西成市民館	萩之茶屋北公園再開後の使い方ワークショップの報告で、子供たちの「声・願い・夢」に耳をすます ～子供たちだって「住民参加」だ～	荘保共子さん (こどもの里・館長) 西野伸一さん (今池こどもの家・主任指導員) +子供関係の領域の方々	39人	釜ヶ崎だって子供を社会の中心に据えて未来を考えようという画期的なテーマ。子供たちと共生できる公園の利用法や生活の根本ニーズについてテント生活者に、役所でなく、つながっている支援団体自身が、聴き取りをしようという提案(態度表明)も出された。何かが動き出したと感じた夜。
144	10年9月 14日 (火)	西成プラザ	巨大中国資本が新今宮駅界隈にやってきて、小さなまちづくりなんて吹き飛ばす!? 地元はどう身構えたらいい? それとも日中友好? ～まずは冷静な学びから～	松村嘉久さん (阪南大学国際観光学部教授、ご専門は中国)	21人	結論は、「来ない! 理由は単純。儲からないから(笑)」。大事なことは住民側の構え方。①地域の「内」からと「下」からの論理基盤をしっかりと創って、②「外」からやってくる相手方資本が何をしようとしているか、その内容を見極めて、③「上」(行政等)からの調整機能を使って、すすめるべしと指摘された。
145	10年10月 12日 (火)	西成市民館	簡易宿泊所大規模最新調査の中間発表(宿泊者像、「簡宿&アパート併用型」の現状など)+簡易宿泊所の過去・現在・未来を語る夕べ	水内俊雄さん(調査団代表者、大阪市大都市研究プラザ教授) 平川隆啓さん(大阪市大都市研究プラザ特別研究員)+簡宿経営者有志のみなさん	33人	簡宿の宿泊者像は予想以上に多様化している状況が発表される。簡宿の将来論では、人間居住論の理想郷からどうしてもはみ出してくる人々が現実に存在する限り、良質の支援ソフト付き住居資源として社会的役割が果たせるし、それがあつた街として釜ヶ崎も役割があるのではないかという議論がされた。
146	10年11月 3日 (祝)	泉大津一帯	つながり発見・歴史街道歩き ～紀州街道沿いの浜街道(泉大津)	案内人:川浪 剛 (浄土真宗大谷派僧侶)	20人	特掃や現役日雇い労働者たちも参加。今回も古地図にもとづいて街道を歩き、歴史ロマンを実感。古寺では無縁社会論が話題に。「また必ず開催してや」との声が耳に残る。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
147	10年11月9日(火)	西成市民館	あいりん総合センターはどうなる？というより、住民はどうしたい！？～「コレクティブ・タウン」論をたたき台に、「釜ヶ崎の良さを生かしたまちづくり」とは何か等を考え、提言づくりへのワン・ステップとする～	寺川政司さん(都市計画画家・CACE まちづくり研究所) ありむら潜(7年前の同テーマでのワークショップ結果の再説明と見直し)	26人	コレクティブタウンとは住居(狭い簡宿)を補完して街の中に「交流ひろば」「居場所」機能等が多様に存在する街のこと。釜ヶ崎は天然のコレクティブタウン。労働者の密集性もプラスに活用できる。あいりんセンターの再生も含めて、この概念提言をブラッシュアップしようとして一致し、盛り上がる。
148	10年12月14日(火)	西成プラザ	初めて取り上げる商店街の活性化問題。何が課題で、何が協力できる？まずは学び、知ることから始めよう。	加藤 司さん(大阪市立大学商学部教授)+動物園前1番街・萩之茶屋商店街等のみなさん・阪堺線存続ワーキンググループのみなさん・天神橋筋商店街で同問題に取り組んでいる関西大学関係者	33人	新世界に来る年間40万人のお客をどうしたら当地域内商店街まで引き込めるかが焦点に。「昭和の街」のコンセプトで食のモデル・コースをガイド付きで始める提案も出る。地域の潜在力はあるゾ等、初回としては上々の集いだったと言えよう。
149	11年1月14日(火)	西成市民館	「まちの新しいかたち」を求めて、「地域の潜在力」を考える。東住吉区田辺でなにわ伝統野菜の田辺大根を地元小学校と組んでつくっている事例を中心に、「地域の力」「地域ブランドの力」等について、多面的に学ぶ。	山本英夫さん(まちづくりの達人。田辺大根増やしたろう会、田辺 hope ゾーン協議会理事、田辺寄席世話人、長池おやじの会、戎橋筋商店街振興組合・活性化事業統括マネージャー)	15人	初めは大きな楠の木の保存運動があり、そこへ地元伝統野菜の田辺大根の発見・復活が加わり、その活用を起点にまちづくりが多面展開した経験を学ぶ。釜ヶ崎なら難波ネギか。伝統野菜+子供+地元芸能等という型は釜ヶ崎でも有効かも。
150	11年2月8日(火)	西成市民館	釜ヶ崎は天然の「コレクティブ・タウン」。ワイワイ言いながら、『おっちゃんたちの居場所』マップを作ろう。その他色々、まちづくり参画作業の「かやくごはん」だ。	平川隆啓さん(大阪市立大学都市研究プラザ) 寺川政司さん(CASEまちづくり研究所)	16人	萩之茶屋小学校東側堀沿いに開設予定の路上ギャラリーに順次掲示する古写真群(上畑コレクション)の選別作業でスライドを見ながら大いに沸く。居場所マップづくりも3班に分かれてワークショップ形式で。釜ヶ崎が新しいステージへ向かうそれを推進する地道な作業だ。コツコツやるのみ。
151	11年3月8日(火)	西成市民館	旅好きが高じて、自分も外国人向けの格安ゲストハウスを経営。自分流の生き方が足元のまちづくりと国際展開の両面につながる。そんな参画のしかたに学ぼう。～もっと地域内部の力(人・付加価値)を掘り起こすシリーズ～	伊東祐美子さん(外国人宿『ピースハウス昭和』経営者)	20人	話を聞けば聞くほどおもしろい宿。立ち上げ時の民家手作り改修も100人超の友たちが手伝いに来た。宿というより長期旅人たちの「たまり場」になっている。この滞在者たちと異文化交流による観光福祉やまちづくりが可能となる確かな予感。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
152	11年4月 12日 (火)	西成市民館	<東日本大震災と釜ヶ崎(1)>①被災現場支援からの緊急帰阪報告 ②避難者・被災者を釜ヶ崎はどう迎え入れられるか(報告と討論)	菅野 拓さん(NPOホームレス支援全国ネット被災地派遣スタッフ)「萩之茶屋まちづくり会議」参画メンバー	35人	菅野さんは、テレビ画面の映像とはズレのある実態、支援が全く届いていない小規模集落等の存在、絆プロジェクト宮城版等を報告&提案。簡宿側からは疎開者の西成での受け入れ体制が語られた。討論では「釜ヶ崎だからこそできる独自の支援ノウハウを明確にして進もう」と。
153	11年5月 10日 (火)	西成市民館	<東日本大震災と釜ヶ崎(2)> 天文学者と語りあう、天変地異の地球、その中で のまちづくりと路地裏ロマン。そして、三角公園での天体観察会の体験。	尾久土 正己 (おきゆうど・まさみ)さん 和歌山大学教授(地域再生学科) 専門:天文学・天文教育・教育工学・観光学	24人	137億年前の宇宙誕生。数千万個ある銀河。銀河同士の衝突写真。銀河系には太陽が1千億個はある。地球は56億年後には太陽に吸収される。星としてまだ冷え切っていないから起きる地球や日本列島の天変地異。そんな中でのまちづくり。達観、達観。そのうえで、コツコツと。達観・大きな心を学ぶ。
154	11年5月 22日 (日)	西成プラザ	<東日本大震災と釜ヶ崎(3)> 震災避難者たちと釜ヶ崎で語り合う「ふるさとを失うこと・つくること」 ～日曜日の遅い午後のお茶会。なんと、フラダンスで「イマジン♪」も踊る ～ ▽「NPO 法人ココルーム」「ソウル・イン・釜ヶ崎」が協賛	○大塚 愛&尚幹さん ご夫婦 (福島県川内村での“自給自足生活”から岡山への避難者。愛さんはフラダンスで脱原発を訴える♪ 尚幹さんはエコ建築の設計やソーラー・システムづくりが仕事)	30人	まずは映像で、震災以前の村での自然生活の徹底ぶりに驚嘆、思わずの笑い。「誰か”何も起こらなかつたんだよ”と言ってほしい」という言葉がせつない。童謡「ふるさと」をみんなで♪。愛さんのフラダンスがマジに美しい。新しいふるさとづくりに向かう釜ヶ崎だからこそこの共有感。
155	11年6月 14日 (火)	西成市民館	『あいりん施策のあり方検討報告書』の解説と討論 ～新しいふるさとづくりに向けた『釜ヶ崎まちづくり総合計画』促進シリーズ(その1)～	水内俊雄さん (大阪就労福祉居住問題研究会代表、大阪市立大学・都市研究プラザ教授) その他同報告書執筆者のみなさん	28人	1960年代初めから2035年頃までの予測も入れた膨大なデータ解説が圧巻。2005年の地域人口2万5千人→2030年は9500人という激減予測に驚きの反応大。だから「施策のドラステックな見直しを」「総合計画も必要」という声にもじみ出る空間。

回	開催日時	会場	テーマ(内容)	おもなスピーカー	参加者数	特徴(後年ふり返っての感想も)
156	11年7月 16日 (土)	西成プラザ	「まちづくりひろば」150回 超記念シンポジウム 新しいふるさとづくりに向 けた『釜ヶ崎まちづくり総 合計画』を考える (1)「あいりん施策のあり 方検討報告書」から考え る (2)「あいりん地域におけ る地域連携方策検討調 査業務報告書」から考え る (3)大討論(みんなで考え る。練る) 『釜ヶ崎まちづくり総合計 画』って何?何の目的で 誰がいつどんな内容 のものをど のようにし て創る?あなたはどこで どう参画する?	(1)水内俊雄さん(大阪 市立大学都市研究プラ ザ教授) (2)寺川政司さん(CASE まちづくり研究所代表、 近畿大学建築学部准 教授) (3)ワークショップ進行 役: 永橋為介さん(立命館 大学産業社会学部准 教授、環境形成論・都 市公園論)		作成中
157	11年9月 17日 (土)	西成市民館	釜ヶ崎を子供たちの声が 聞こえる街に ~その原 点にもどって考えよう~	あいりん小中学校の先 生と生徒のみなさん		作成中

以下作成中